

特別展

「ウメサオタダ才展」

みんなく初代館長・梅棹忠夫の軌跡をたどり未来をみつめる特別企画
日本のどのような問題も、日本だけでは解決できない、そんな現代だからこそ、世界への知的好奇心は欠かせません。世界中を歩きさまざまな感動を記録した、梅棹忠夫の生涯を、みんなくで「探検」してください。そして、世界へのあくなき好奇心をお持ち帰りください。
会期 6月14日(火)まで
会場 特別展示館



1980年館長室にて

■関連イベント
◆企画展
「民族学者 梅棹忠夫の眼」
梅棹忠夫が、世界各地で自身が撮影した写真のなかから自ら46点を選び、国内各地で開催した写真展「民族学者 梅棹忠夫の眼」を再現します。
会期 6月14日(火)まで
会場 本館展示場内
◆みんなくセミナー
詳細は13ページをご覧ください。
◆みんなくウィークエンド・サロン
みんなく名誉教授が梅棹先生の人柄や研究についてお話しします。詳細は24ページをご覧ください。

◆みんなく映画会/みんなくワールドシネマ
「海を飛ぶ夢」
実施日 5月28日(土)
時間 13時30分～16時30分(開場13時)
会場 講堂
定員 450名
※参加無料、申込不要
※当日10時から会場入口にて整理券配布
お問い合わせ
広報企画室 企画連携係
電話 06-6878-8210

公開タンワークショップ
「インド刺繍〜思いと出会う・願いでつながる」
インド西部の刺繍との出会いをもとに、ダンス表現を創り、発表するワークショップです。
実施日 6月5日(日)
時間 10時～16時30分
場所 第5セミナー室、第7セミナー室など
※要申込(見学は自由です。詳細はホームページ)
※このワークショップは、東日本大震災の影響により中止となった企画を、日程と内容を変更して開催するものです。被災された方々に心よりお見舞いを申し上げ、早期の復興を祈念いたします。

【研究部の新メンバー】
伊藤敦規 助教(文化資源研究センター)が4月1日付で着任しました。日本学術振興会特別研究員(PD)・国立民族学博物館を経て現職。専門は社会人類学、アメリカ先住民研究。論文に「博物館標本資料の情報と知識の協働管理に向けて」、「協働作品としての「水」・ズニ作家展」
北米先住民の知的財産保護に向けた日本での実践」
などがある。

菅瀬晶子 助教(民族文化研究部)が4月1日付で着任しました。北海道立北方民族博物館学芸員を経て現職。専門は北方地域先住民の文化人類学、特にアイヌ民族と北海道先住民。著作に「極北地域における毛皮革の利用と技術」(北海道大学出版会)「環北太平洋の環境と文化」所収、「極北と森林の記憶——イヌイットと北西海岸インディアンの航海」(共編/昭和堂)などがある。

菅瀬晶子 助教(民族文化研究部)が4月1日付で着任しました。日本女子大学ほか非常勤講師、総合研究大学院大学学融合推進センター特別研究員を経て現職。専門は文化人類学、中東地域研究。ことに東地中海アラブ地域。著書に「イスラエルのアラブ人キリスト教徒」(深水社)、「新月の夜も十字架は輝く——中東のキリスト教徒」(山川出版社)などがある。



みんなくセミナー

会場 国立民族学博物館 講堂
時間 13時30分～15時(13時開場)
定員 450名(当日先着順)
参加費 無料(展示をご覧になる方は、観覧料が必要です。)

第396回 5月21日(土)
【特別展ウメサオタダ才展関連】
青年ウメサオタダ才の学問形成
講師 中生勝美(桜美林大学 教授)
聞き手 小長谷有紀(国立民族学博物館 教授)



終戦間際の張家口に、伝説の研究所と呼ばれた西北研究所がありました。この研究所の半分以上の所員が著名な人類学・生態学の学者となりました。今回の発表で、若き日のウメサオタダ才が、ボナペ、大興安嶺、冬のモンゴル草原縦走を通じて、どのように学問形成をしたのか、1998年にインタビューしたビデオテープの証言を元に発表します。

第397回 6月18日(土)
布・人・技、そして環境
講師 関本照夫(国立民族学博物館 特任教授)



モノと人の関係、人と人の関係を、インドネシアの布作りから考えてみます。モノは「できる」のか、「作られる」のか、という疑問です。人が布を作るといのが常識です。でも人は、モノや環境を自由に操る万能の存在ではありません。モノ、技、人が絡み合う環境からモノも人も「出きてくる」と見てはごどうでしょうか。

友の会

友の会講演会(大阪)

会場 国立民族学博物館 第5セミナー室
定員 96名(当日先着順、会員登録必須)
第396回 6月4日(土) 14時～15時
【特別展ウメサオタダ才展関連】
梅棹忠夫と民族誌写真
講師 吉田憲司(国立民族学博物館 教授)
日本写真家協会会員でもあった梅棹忠夫先生は、民族学調査での写真の活用について独自の見識のもと、世界各地で、その地に暮らす人びとの姿をカメラに収めました。「梅棹忠夫写真コレクション」は民博に寄贈され、現在その整理や情報化作業をすすめています。企画展「民族学者 梅棹忠夫の眼」の開催にあわせ、梅棹先生がカメラ・レンズを通じて眼を凝らそうとした世界を改めて見つめ直します。
※講演会終了後、企画展見学会があります。
第397回 7月2日(土) 14時～15時
織フェルトの敷物づくり
かれらはなぜつくり続けるのか?
講師 上羽陽子(国立民族学博物館 助教)

東京講演会

第98回 6月26日(日) 14時～15時
梅棹忠夫先生の学問世界
講師 松原正毅(坂の上の雲ミュージアム館長、国立民族学博物館 名誉教授)
梅棹忠夫先生は、「幻視の行為者」としての人生をあゆまれました。そのあゆみは、みんなくにとってよいものです。梅棹先生の学問世界をささえていた三つの要素は、持続力、越境力、発見力だとおもっています。今回の講演会では、この三つの要素を中心にお話したいと考えています。
会場 東京都中小企業会館 講堂(銀座)
定員 130名(要申込)

「友の会」入会キャンペーン実施中

6月末までに新規ご入会の方にはオリジナルグッズを進呈しています。新規会員をご紹介くださった会員の方にもお贈りします。ぜひこの機会にご入会ください。

国立民族学博物館 ミュージアム・ショップ

電話 06-6876-3112
FAX 06-6876-0875
e-mail shop@senri-f.or.jp
水曜日定休

ウェブサイトもご覧ください。
オンラインショップ
[World Wide Bazaar]
http://www.senri-f.or.jp/shop/

特別展「ウメサオタダ才展」
関連商品のご案内

梅棹忠夫が1940年に樺太にてイヌそりの研究で描いたスケッチをもとにクリアファイルを作成しました。サイズはA6、A5、A4の3種類。
「梅棹忠夫のことは」小長谷有紀著は梅棹忠夫の書いた文章の中から、10のテーマごとに10のことはを選んだわかりやすく解説しています。知的山脈をのぼるためのガイドブックとして、絶対におすすめです。



クリアファイル A6・250円、A5・300円、A4・350円、3種セット 800円
ポストカード (4種) 各105円、4種セット 380円 ※以上すべて税込
『梅棹忠夫のことは』河出書房新社
著者：梅棹忠夫 編著者：小長谷有紀 定価1,365円(税込)

刊行物紹介

■松本博之編
『海洋環境保全の人類学——沿岸水域利用と国際社会』
国立民族学博物館調査報告 No.97

■Tsuguhito Takeuchi, Burkhard Quessel and Yasuhiko Nagano(eds.)
Research Notes on the Zhangzhung Language by Frederick W. Thomas at the British Library (Bon Studies14)
国立民族学博物館調査報告 No.99

■ウリヤンハイ L. テルビン
ウリヤンハイ T. チョローンエルデネ共編
『チベット・モンゴル対訳語彙集』
国立民族学博物館調査報告 No.98

みんなくラジオ「世界を語る」みんなくのお話をお話するラジオでもお楽しみいただけます。
ラジオ大阪(1314kHz)
毎週水曜日 23時30分から24時

毎日新聞夕刊連載「旅・いろいろ地球人」みんなくの研究のエッセイが毎週水曜日に掲載されています。

*詳細については、みんなくホームページをご覧ください。
*お問い合わせの受付時間は9時から17時(土・日・祝を除く)です。